

別紙2

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果

学校名		長崎県立長崎東中学校
生徒数		120名
各教科の状況		
国語A	概況 改善策	平均正答率は94%であった。概ね基礎的事項は身につけているが、与えられた文章について正しく説明したものを選択する問題については、やや課題が残った。今後は授業を通して客観的根拠に基づいた読解力を身につけさせていく。
国語B	概況 改善策	平均正答率は94%であった。言語活用能力について概ね定着しているが、比喩によって表現された文を説明したり、スピーチの内容を条件に従って聞き手に分かりやすく修正したりする力については課題があるため、今後は場面に応じて考えたり、表現したりする力を強化していく。
数学A	概況 改善策	平均正答率は87%であった。概ね基礎的事項は身につけており、答えを求められた事項については、多くの生徒が正しく求めることができている。一方で「関数」「範囲」など用語の意味を理解できていない生徒がいるため、基礎的事項の定着についても意識的に取り組んでいく。
数学B	概況 改善策	平均正答率は76%であった。与えられた情報や資料から必要なことを選択し活用することはできているが、数学的な表現を用いて説明することを苦手としている生徒がいる。今後は、授業の中で数学的に説明させる機会を増やすなど、言語活動に積極的に取り組ませる。
質問紙調査の状況		平日の平均学習時間は、1時間40分であり、3分の1の生徒は2時間以上の家庭学習時間を確保できている。一方で携帯電話やスマートフォンに費やす時間が多い生徒もいるので、家庭と学校の連携をとり、改善に努めていく。

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果

学校名		長崎県立佐世保北中学校
生徒数		117名
各教科の状況		
国語A	概況 改善策	平均正答率は94%であった。基本的な知識は身につけているが、場面に応じた言葉遣いができない生徒がいる。また、慣用句など、特有の言い回しがわからない生徒もいるので、短作文を繰り返し作らせるなど、表現方法や表現力を身につけさせる授業を行っていく。
国語B	概況 改善策	平均正答率は91%であった。基本的な言語活用能力は身につけていると考えられる。一方で、問題の条件をきちんと把握することなく、解答を試みている生徒がいるので、今後は、問われている内容や答え方について論理的に考える力を身につけさせていく。
数学A	概況 改善策	平均正答率は89%であった。文字式における数量関係の表現や計算する力、空間図形についてはよく理解できている。一方で、方程式を関数の式とみて、そのグラフの意味を考えることについては課題がある。今後の授業では、与えられた問題や式についての多角的な見方や考え方による理解が深まるよう指導していく。
数学B	概況 改善策	平均正答率は77%であった。与えられた説明の筋道を読み取る力が身につけている。一方で、資料から必要な情報を適切に読み取ったり、証明した事柄を用いて新たな性質を見つけたりする力が十分ではない生徒が多い。今後は、問題や資料の解釈の仕方について丁寧に指導し、言語活動を充実させていく。
質問紙調査の状況		学校の宿題への取組状況は良好で、家庭学習の習慣がよく身につけている。授業の復習はよくできているが、予習まで取り組んでいる生徒の割合が低い。今後は授業において、次の時間までにどのような予習をしたらよいか具体的に指示を出す。

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果

学校名		長崎県立諫早高等学校附属中学校
生徒数		116名
各教科の状況		
国語A	概況 改善策	平均正答率は96%であった。「場面の展開や登場人物の描写に注目して読み、内容を理解する」「相手に分かりやすいように語句を選択して話す」「自分の表現を見直す」など全領域にわたってよくできている。場面や状況に応じて、語句を適切に使うことは十分とは言えないため、主体的な学びの中で、適切に書くことの定着を図るよう努める。
国語B	概況 改善策	平均正答率は95%であった。目的に応じた資料の読み取り・効果的な活用などがよくできている。一方で、相手の反応を踏まえながら事実や事柄を相手に分かりやすく工夫して話すことなどについては十分とは言えないため、新聞記事の事実や主張に対する自分の考えを書く、話すなどの表現活動を充実させる。
数学A	概況 改善策	平均正答率は90%であった。全ての領域において、計算や図形の性質、グラフや資料の読み取りなど、基礎的・基本的な事項が身につけている。一方で、「錯角」「関数」「範囲」の各語句の意味理解が十分でないため、これらを様々な場面で学習する活動などを仕組み、定着を図るとともに、語句の多面的な理解を図るよう努める。
数学B	概況 改善策	平均正答率79%であった。与えられた情報から必要な情報を適切に読み取り、的確に処理することはできている。一方で、事柄が成り立つ理由や問題解決の方法などを数学的な表現を用いて説明することについては課題があるため、数学の用語の定着を図るとともに、用語を使って考察・説明する授業づくりに努める。
質問紙調査の状況		授業や質問への対応等についての満足度は高く、宿題・予習に取り組む家庭学習習慣、最後までやり遂げる態度などが定着している。また、新聞やニュースの視聴を通して、社会や世界を知りたいという意欲が高まっている。昨年度同様、ゲームや通話・メール等を2時間以上する生徒は1割未満であるものの、引き続き適切な指導を継続していく。